

横浜港の消防救助体制を迅速化することができました

～「水上消防救助部隊」発隊から1年～



(水上消防救助部隊)

消防艇よこはま、消防艇まもり、救助艇ゆめはま、水難救助隊

寄港する大型クルーズ船の増加やコンテナ船の大型化が進む中、国際競争力の強化と安全・安心な港づくりに取り組む 横浜港の港湾消防力を強化 するために、平成31年4月1日（月）「水上消防救助部隊」が誕生しました。

令和元年5月13日（月）には発隊式を挙行し、本日で 1年が経過 しました。

水難救助隊の水難救助能力と消防艇等の機動力が融合 したことで、横浜港で発生した 水難救助災害への即時対応力が強化 されました。

◆発隊の効果

発隊により出場指令と同時に 救助艇「ゆめはま」に水難救助隊潜水員が乗船して出場する事が可能になりました。

これまでの水難救助隊は、海上の検索ポイント付近の岸壁等まで消防車両で移動し、その後潜水員が海上の検索ポイントまで泳いで向かい、人命検索活動を行っていました。

救助艇に潜水員が乗船して出場可能としてからは、海上の 検索ポイントに到着と同時に人命検索を開始 できるようになり、出場指令から検索開始までの時間が短縮 されました。

救助艇「ゆめはま」に水難救助隊員が乗船して出場した件数

22件 （平成31年4月1日から令和2年3月31日までの間）

◆事例

横浜ベイブリッジからの飛び降りが原因と思われ、潜水員による検索活動が必要な水難救助事案は、過去3年間で7件発生しています。

昨年度も計3件の事案が発生しましたが、部隊発隊による初動の迅速化により 2件の事案で要救助者が水中に沈む前に発見、救出することができました。



水難救助隊員が救助艇から海上へ救助に向かう様子（訓練）



水上から救出した要救助者を救助艇から消防艇に収容する様子（訓練）

【参考】水上消防救助部隊の災害出場件数

（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

	火災	救助	救急支援	その他	合計
よこはま水上消防隊	5	28	0	2	35
まもり水上消防隊	4	24	0	1	29
ゆめはま水上消防隊	4	60	0	2	66
水難救助隊	0	76	6	1	83

お問合せ先

消防局鶴見消防署 警防課長 若林 等 TEL 045-503-0119